

付 録



用語解説



* 1) ネットワーク・コミュニティ

日常生活圏の各集落が持つ生活機能・特徴を、ソフトとハードの両面においてネットワーク化することで形成される、全体としてひとつの力強いコミュニティ。

* 2) 地域高規格道路

高規格幹線道路を補完し、地域の自立的発展や地域間の連携を支える道路であり、自動車専用道路、もしくはこれと同等の高い規格を有し、概ね 60km/h 以上の走行サービスを提供できる道路。

* 3) リダンダンシー

「冗長性」、「余剰」を意味し、道路においては、災害の発生等により、一部の区間が通行止めになっても、これを迂回できる道路ネットワーク（代替道路）があらかじめ用意されている状況のこと。

* 4) 緊急輸送道路

大規模な地震等が起きた場合の避難・救助をはじめ、物資の供給、諸施設の復旧等広範な応急対策活動を広域的に実施するための道路。

* 5) 啓開ルート、最優先啓開ルート、地区別道路啓開実施計画

啓開ルートは、大分県緊急輸送道路を基本とした、県内の地域及び広域の防災拠点を結ぶルート。最優先啓開ルートとは、啓開ルートのうち、救命活動を行うために必要な「県外あるいは広域的な防災拠点を結ぶ骨格ルート（広域啓開ルート）」と「救命活動に係る公的機関、医療施設、交通拠点を結ぶルート（地域啓開ルート）」。

地区別道路啓開実施計画とは、各地域での実情を考慮した、具体的な道路啓開計画。

* 6) 事故危険箇所

事故発生割合の高い区間のうち、道路整備や交通安全施設整備によって対策効果の見込まれる区間であって、道路管理者と公安委員会が連携して集中的な交通事故抑止対策を実施する箇所。

* 7) アセットマネジメント

資産管理（Asset Management）の方法。例えば、道路管理においては、橋梁、トンネル、舗装等を道路資産ととらえ、その損傷・劣化等を将来にわたり把握することにより、最も費用対効果の高い維持管理を行うための方法。

* 8) 竹田市アート・レジデンスプロジェクト

竹田市で行われている施策。国内外から優れた作家を招聘し、創作活動と地元住民との交流を通じて、地域の芸術・文化振興や移住者獲得に大きな影響が期待できる。竹田市においては、江戸期に「田能村竹田が日本を代表する漢学者頼山陽を招き深めた交流」等々、長い歴史のなかで民間を中心として盛んに取り組まれてきた。

* 9) ゲートレス化

洪水吐に機械式のゲートを設置しているダムについて、比較的小規模なダムでは「安全なダム管理」をめざし、ゲートの故障等による事故をなくすため、ゲートを取り外す「ゲートレス方式」を行うもの。

* 10) 要配慮者利用施設

老人ホームや保育園などのこと。避難などに際し、援護者が必要となると考えられる施設。

* 11) 土砂災害危険度情報

土砂災害警戒情報の内容を補足する情報。土砂災害発生危険度を 5km メッシュで情報提供している。



* 12) 火山噴火緊急減災対策砂防計画

火山噴火に伴い発生する土砂災害に対して、ハード対策(既設砂防えん堤の除石、仮えん堤の設置等)とソフト対策(火山監視機器の設置・避難支援のための情報提供等)からなる緊急対策を迅速かつ効果的に実施し、被害をできる限り軽減することを目的とした計画。

* 13) BCP (Business Continuity Plan)

企業が自然災害などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと。

* 14) 無電柱化

道路の地下空間を活用して、電力線や通信線などをまとめて収容する電線共同溝などの整備による電線類地中化や、表通りから見えないように配線する裏配線などにより道路から電柱をなくすこと。

* 15) 法指定通学路

「交通安全施設等整備事業の推進に関する法律施行令」で定めた通学路。小学校若しくは幼稚園又は保育所に通うため、一日につき概ね40人以上通行する区間のほか、小学校等の出入口から1km以内の区域に存し、児童・幼児の通行の安全を特に確保する必要がある箇所。

* 16) 長寿命化計画

戦略的な維持管理・更新等を推進するため、各施設の特長や維持管理・更新等に係る取組状況等を踏まえ、施設の状態や対策の優先順位の考え方、対策内容と実施時期等を記載したメンテナンスサイクルの核となる計画。

* 17) 道路事前通行規制

過去の記録により、異常気象による災害発生の危険が高い区間において、異常気象による規制の基準値を定め、災害等が発生する前に規制(全面通行止め)を実施すること。

* 18) 危機管理マニュアル

大分県土木建築部が行う災害応急対策を迅速かつ適切に実施するため、連絡体制や業務内容など、災害発生時の具体的な対応をとりまとめたもの。

* 19) 主要渋滞箇所

平成24年度に大分県交通渋滞対策協議会により選定された渋滞箇所のこと。道路利用者の移動情報(プローブデータ)を収集・分析すると共に道路利用者等の渋滞実感を聴取、これらの情報や現地状況により地域の実態や実感に基づいた渋滞箇所として選定された。

* 20) 大分都市圏総合都市交通計画

平成25年に実施したパーソントリップ調査(交通実態調査)を基に平成27年9月に大分都市圏総合都市交通計画協議会によりとりまとめられた交通計画。大分都市圏(大分市、別府市、臼杵市、豊後大野市、由布市、日出町)を対象とし、平成47年を見据えた都市圏における望ましい交通体系の整備に関する方針を示したもの。

* 21) 広域防災拠点

市町村を越える広域的な大規模災害の発生に際して、国、市町村、防災関係機関との連携のもと、応急対策を迅速に進めるための総合的な拠点。救助・救急、消火に係る各支援部隊の結集、宿営の拠点、災害医療活動の拠点、救援物資の集積・仕分け・輸送に係る活動の拠点、これらの活動を総合的に調



整する拠点をいう。

*22)合併処理浄化槽

下水道が整備されていない区域において、住宅等から排出するし尿を、生活雑排水（台所、風呂、洗濯等で使用した水）と併せて戸別に浄化処理し、公共用水域（水路や河川、湖沼、海域等）に排出する設備。公共用水域の水質保全を目的として、し尿しか処理できない単独処理浄化槽や汲み取り便槽からの設置替えを促進している。

*23)BOD

水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量のこと。河川の有機汚濁を測る代表的な指標。環境基準では、河川の利用目的に応じて類型別に定められている。

*24)世界農業遺産

国際連合食糧農業機関（FAO）が、世界的に重要な農業地域を次世代に引き継ぐため、環境悪化、人口増加の影響により衰退の途にある伝統的な農業や文化、土地景観の保全と持続的な利用が図られている地域を認定する 2002 年に開始したプロジェクト。

*25)ジオパーク

地球科学的、歴史・文化的に貴重な地質遺産等を保全し、調査研究を行うとともに、教育学習活動やツーリズム等に有効活用する取組を行う地域のこと。大地（Geo）と公園（Park）を組み合わせた造語。

*26)日本風景街道

「日本風景街道」とは、道を舞台に多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かし、美しい国土景観の形成、地域活性化や観光振興を行っていく取組のこと。シーニックバイウェイ。大分県内では、以下の4箇所が指定されている。

①日豊海岸シーニック・バイウェイ：

日豊海岸地域の国道 388 号などを中心とする地域。

②九州横断の道やまなみハイウェイ：

やまなみハイウェイ（別府一の宮線、国道 500 号、国道 210 号）に沿った道を中心とする地域

③「豊の国歴史ロマン街道」：

旧中津街道・勅使街道沿線（国道 10 号、国道 213 号など）を中心とする地域。

④別府湾岸・国東半島海への道：

国東半島沿岸（国道 213 号）から別府湾岸沿線（国道 10 号、臨海産業道路・大在大分港線、国道 197 号、国道 217 号）を中心とする地域。

*27)とるば

国土交通省が平成 16 年度から取り組みを行っているフォトスポット&パーキング（愛称：とるば）。道路沿いから見える美しい景色を撮影できる場所において、安全に駐車できる駐車場と、そこから歩いていける撮影スポットがセットになった場所のこと。

*28)「おんせん県おおいた」ディステーションキャンペーン（DC）

県内観光関係者や県、市町村と JR グループ 6 社等が協力し、旅行会社等の協力を得ながら平成 27 年 7 月から 9 月にかけて全国から誘客を図った国内最大規模の観光キャンペーン。

*29)スマートIC

高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリア、バスストップから乗り降りができるように設置される IC（インターチェンジ）であり、通行可能な車両（料金の支払い方法）を、ETC を搭載



した車両に限定している I C。

* 30) 1.5 車線の道路整備

コスト縮減と整備効果の早期発現をめざして全線2車線の道路改良にこだわらず、地域の事情に則し、待避所設置や突角是正などの局部的な改良と1車線改良及び2車線改良などを組み合わせた道路整備の手法。

* 31) 身近な道改善事業

既存の道路敷を活用し、住民の生活に密着した道路の安全性・利便性を低コストかつ短期間で向上させるとともに、地域ニーズに応じた小規模な工事発注により、地域雇用創出など景気対策にも貢献する事業。具体的には、路肩の拡幅や簡易歩道整備等の小規模な改良や通学路安全対策を実施。

* 32) モーダルシフト

物流をめぐる制約要因(労働力不足・交通混雑・環境問題)が深刻化する中で、物流の効率化を図っていくためには、幹線の部分はトラックからより効率のよい鉄道や海運を使っていくことが望ましく、これをモーダルシフトと呼んでいる。

* 33) 土木未来教室

地域の将来を担う子供たちに、土木・建築のすばらしさ、土砂災害対策などの取組、自分たちの地域が変わっていく姿を感じ、自らが生活する場である地域と今後の地域づくりについて関心を持ってもらうために、小中学生等を対象に行う体験型学習会。

* 34) 土木未来チャレンジ事業

社会資本の整備や維持管理、防災等について、地域住民の理解を得て、行政と協働して取り組めるように、地域住民と土木事務所等の職員が積極的に意見交換を行うための会場等経費及び協働活動を支援する事業。

* 35) VE (バリューエンジニアリング)

最低のライフサイクルコストで、必要な機能を確実に達成するために、製品やサービスの機能的研究に注ぐ組織的努力。目的物の機能を低下させずにコストを低減する又は同等のコストで機能を向上させるための技術。

* 36) 契約後VE

契約後、受注者が施工方法等について技術提案を行い、採用された場合、当該提案に従って設計図書を変更するとともに、提案のインセンティブを与えるため、契約額の縮減額の一部に相当する金額を受注者に支払うことを前提として、契約額の減額変更を行う契約方式。

* 37) CALS/EC

「公共事業支援統合情報システム」の略。従来は紙で交換されていた情報を電子化するとともに、ネットワークを活用して各事業部門をまたぐ情報の共有・有効活用を図るための仕組み。

* 38) 工事監理連絡会

発注者・受注業者・測量調査設計を担当したコンサルタントの三者により施工段階で生じる様々な問題や課題に対応・調整して、円滑な工事施工と目的物の品質向上を目的として行う会議。

* 39) ワンデーレスポンス

工事において、発注者が受注者からの問い合わせや協議に対して1日(24時間)以内に回答、ある



用語解説



いは回答予定日を示す取り組み。

*40) 景観計画区域、景観ガイドライン

景観計画区域：景観法に基づく景観計画の対象区域

景観ガイドライン：景観計画による届出対象行為の景観形成の指針

*41) ダンピング

適正な施工が見込めないような低価格での受注。ダンピング受注は、建設業の健全な発達を阻害するとともに、特に、工事の手抜き、下請企業へのしわ寄せ、労働条件の悪化、安全対策の不徹底等につながりやすい。

*42) 流水型ダム

洪水調節専用のダム。ダムの持つ様々な機能のうち、洪水調節機能に特化した目的で建設され、常時水を貯める必要がなく、河川の流量が多く渇水の恐れがない場所に建設される。通常時はダムに水を貯めないことや、河床近くに洪水吐や土砂吐を設置することにより、貯水池内でも普通の川の状態が維持され、ダムの上下流における水循環、土砂循環、魚類の移動など、自然に近い物質循環が維持される。

*43) ハザードマップ

災害時に、地域の方々が安全に避難をするために必要となる情報（想定浸水深、避難所の位置及び一覧、緊急連絡先、避難時の心得等）を記載した地図。

*44) サプライチェーン

原材料の調達から生産・販売を経て最終消費に至る、製品・サービス提供のための一連の流れ。

*45) RORO船

ロールオン・ロールオフ船。貨物をトラックやフォークリフトで積み卸す（水平荷役方式）ために、船尾や船側にゲートを有する船舶であり、そのまま乗り降りを行うため、荷役効率が飛躍的に向上する。

と き め き
『土木未来宣言』 ～職員の共通の価値観と行動指針～

時代の潮流

- 時代の潮流への対応 ●
 - ・行政ニーズの多様化
 - ・若手職員への技術の継承

行政主導から
 県民主体へ

あるべき姿

- 県民が主役 ●
 - 県民が夢を持ち、自らが主役となって地域づくりを推進

- 県民とともに ●
 - 地域に密着し、県民とともに地域づくりに取り組み、地域の声を積極的に業務に反映

※次頁に詳述

使 命

県民の生命財産を守る



県民の望むサービスを提供する

心得3原則

- ① 県民優先の原則
- ② 地域密着の原則
- ③ 価値向上の原則

行 動 指 針

私たちは、すぐに駆け付けます
 土木事務所は、県民の安全安心を守る
「地域の総合防災センター」

私たちは、よく見、よく聞きます
 土木事務所は
「住民サービスの最前線」

私たちは、常に改善していきます
**風通しが良く、努力が報われる
 職場づくり
 「課題解決型チーム」を編成**

職員の自由な発想と熱意を活かす活力ある組織を目指して

〔 職員の自由な発想と熱意、県民への想いを育て、これを最大限に活用する活力ある組織づくりとして『活性化のスパイラル』を進めていく。 〕

職員の自由な発想・意欲・能力を活用

- ① 県庁内の横断的人事の推進
 各省庁、市町村などへの派遣を推進
 技術職員の政策立案能力の向上と、土木建築部の技術力を活用した課題解決を図る。
- ② 既存の枠にとらわれない公共事業の改善案を施策に反映
 職員が提案する公共事業改善案（コスト縮減、製品の品質管理など）について成果が期待できるものは、施策の実現に向け取り組む。

活性化の
 スパイラル

活力ある組織

- ① 『課題解決型庁内横断的チーム』の編成
 情報交換が主体となった従来の「庁内連絡会議」だけでなく、課題によっては庁内横断的なチームを編成し、早期課題解決に取り組む。
- ② 『類似事業の連携』
 類似事業の連携により業務の効率化を図る。

と き め き

土木未来

「県民が主役の、県民とと

1 私たちは、すぐに駆けつ



←土木未来教室の状況



急傾斜緊急点検の状況→



◎土木事務所は「地域の総合防災センター」

①道路の穴ぼこや河川護岸の破損など、何か異変を下さい。

・1時間（1 hour）を目処に現場に到着する。

・国、市町村等との連絡体制を強化します。

※道路の緊急案件は年中無休24時間対応の緊急ダイヤルへお願いします。

②災害が発生した場合には、職員がすぐに現場を迅速に確立します。



油が河川に！職員によ

2 私たちは、よく見、よく聞きます。

◎現場主義に徹した土木建築行政を目指します。

①日常生活で困ったこと、こうして欲しいことなどありませんか？

あらゆる機会を通じて、県民の皆様と対話し、地域の声をよく聞きます。

・事業説明会、土木未来教室、1日砂防教室等で、わかりやすく説明し、皆さんの意見をお聞きします。

・1日（1 day）以内に相談等への対応方針をお知らせするように努めます。

・各土木事務所のHPによる情報発信、情報収集を行います。

②大雨や地震などに対して不安や困ったことはありませんか？

職員が現場をよく見、地域の皆様のお話を伺います。

・洪水に対して大丈夫？ 家の裏山は大丈夫？



現地を見て、地域の声をよく聞きます

行動指針

もに進める土木建築行政」

けます。

」です。
に気づいたら連絡

ように努めます。

「#9910」道路

に駆けつけ、初動体制



る応急対応



目標

すばやい行動！すばやい対応！

1 hour and 1 day response

3 私たちは、常に改善していきます。

◎豊かで暮らしやすい県土づくりを目指します。

①社会の変化に対応した施策を常に考えます。

・意見交換会などを通じて県民ニーズを把握し、施策に反映します。

※新たに「おおいた土木未来プラン2015」に位置付けた施策

□「おんせん県おおいた」のツーリズム支援

□地域を守る建設産業の担い手の確保・育成 など

②災害時等危機管理体制の充実を図ります。

・国、市町村、警察、消防、自治会、NPO 等との連携を強化します。

・雨量や河川水位など災害関連情報の提供について充実を図ります。

・頻発化・激甚化する豪雨災害に対する警戒避難体制の充実を図ります。

□想定し得る最大規模の降雨等を前提とした浸水想定区域への見直し

□土砂災害警戒区域の指定加速



住民との意見交換会

大分県全図

中津日田道路 L=約50km

調査区間	事業中	計画路線	事業中	開通区間(H24.3)	事業中(直轄権限代行)	開通区間(H27.2)	開通区間(H21.3)	開通区間(H27.3)
日田市 L=約4km	日田山国道路 L=8.5km	中津市耶馬溪町～ 中津市山国町 L=約8km	耶馬溪道路 L=5.0km	本耶馬溪耶馬溪道路 L=5.0km	三光本耶馬溪道路 L=12.8km	中津三光道路 L=3.0km	中津道路・中津港線② L=3.6km	中津港線①(臨港道路) L=3.4km

福岡県



熊本県

玉来ダム

形式：重力式コンクリートダム
 ダム高：約52m
 堤頂長：約145m
 堤体積：約13万m³
 総貯水容量：4,090,000m³

凡 例	
	自動車専用道路
	国道 (管理区間)
	国道 (管理区間外)
	主要地方道
	一般県道
	開 通 区 間
	事業中区間
	計画路線
	候補路線

調査区間	事業中	開通区間(H27.2)	開通区間(H20.3)	開通区間(H27.3)
竹田道路 L=4.0km	朝地～竹田間 L=6.0km	大野～朝地間 L=6.3km	千歳大野道路 L=8.7km	大野竹田道路 L=12.3km

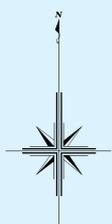
中九州横断道路 L=約120km

大分中央幹線道路((都)庄の原佐野線) L=6.0km

計画区間 L=約2.0km	整備区間 L=約3.2km	調査区間 L=約0.8km
------------------	------------------	------------------



開通区間 L=約2.2km	事業中 L=約1.0km
------------------	-----------------



区間(19.3)
洞千歳道路 L=16.0km
L=4.3km

宮崎県

日向灘

愛媛県

伊方町

(別府-八幡浜)

(別府-大阪)

(大分-神戸)

(白杵-八幡浜)

(佐伯-宿毛)



と き め き
おおいた土木未来プラン 2015

いのち
生命を紡ぐ県土づくり

2016年3月発行

編集・発行 大分県土木建築部建設政策課

〒870-8501 大分市大手町3丁目1番1号

TEL:097(506)4555

FAX:097(506)1771

E-mail:al8700@pref.oita.lg.jp

印刷 有限会社 勉強堂美術精版社



大分県人権啓発イメージキャラクター
こころちゃん